

今後のマクロ経済政策運営について

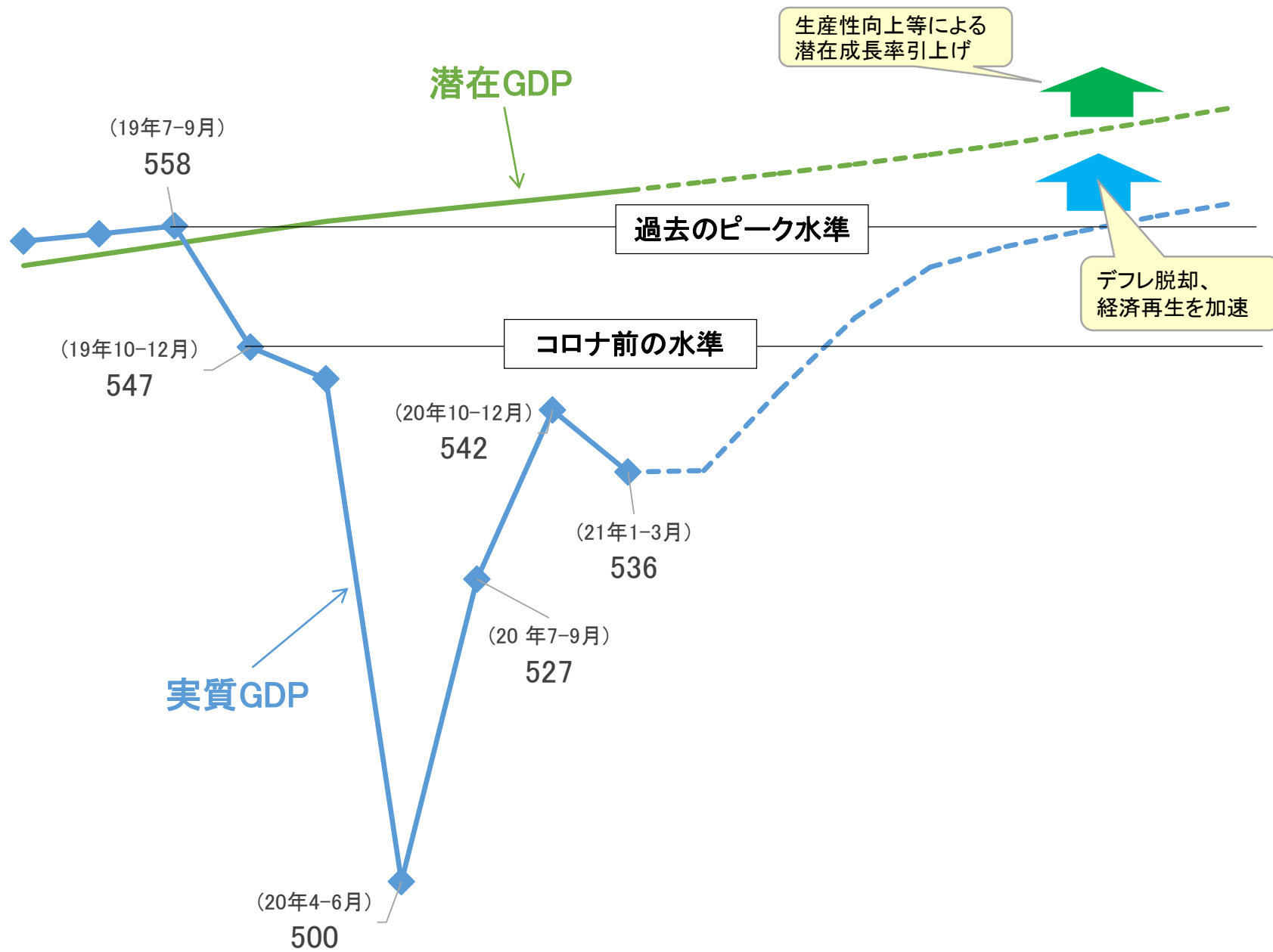
参考資料

2021年7月6日

竹森 俊平
十倉 雅和
新浪 剛史
柳川 範之

1. 経済の回復パス(イメージ)

GDP
の
水
準

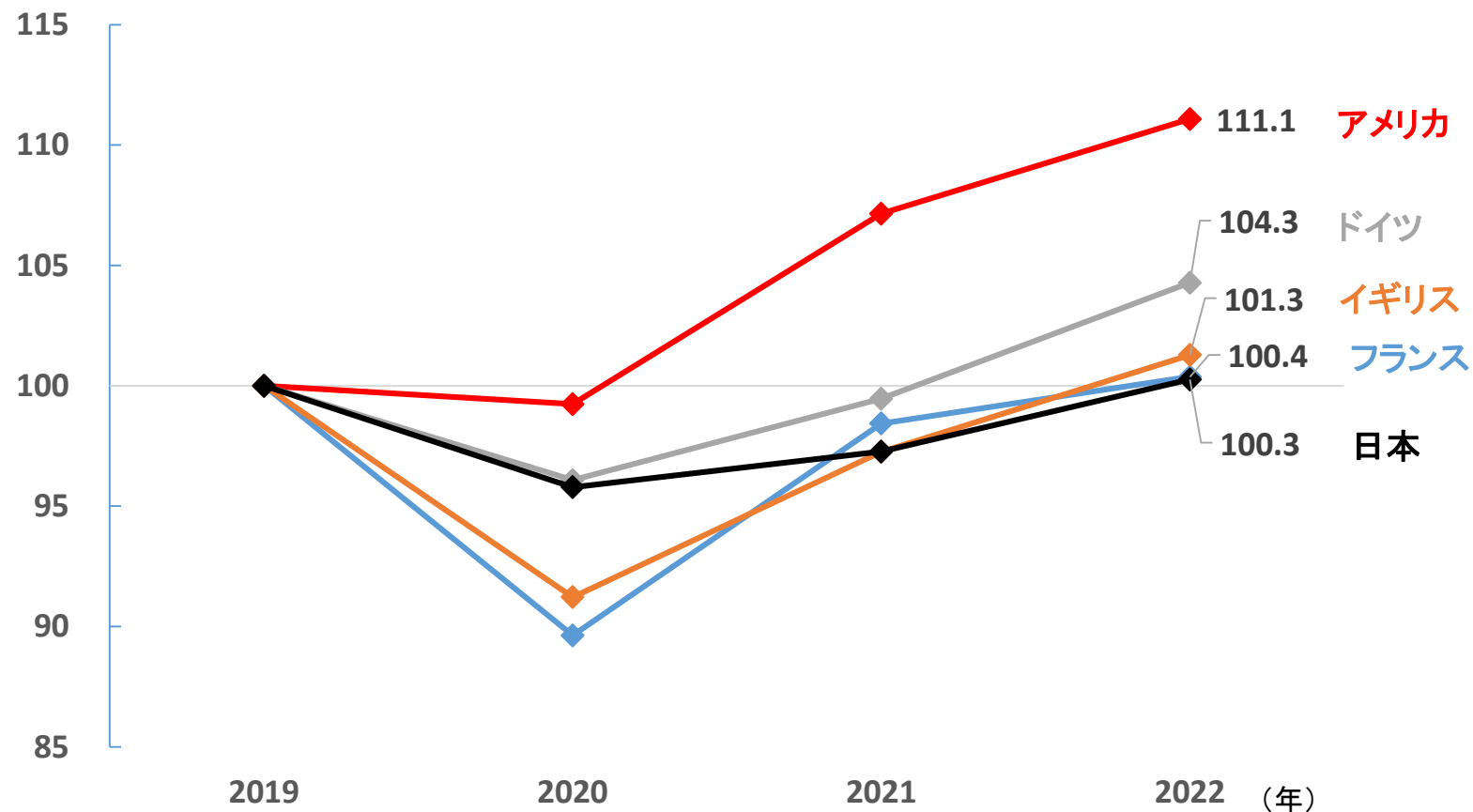


2. OECDによる主要国の総固定資本形成の見通し

OECDによると、主要国に比べて、日本の投資の伸びは相対的に低い見通し。潜在成長率の引上げに向け、民間投資の喚起が必要。

OECDによる主要国の総固定資本形成の見通し

(2019=100)



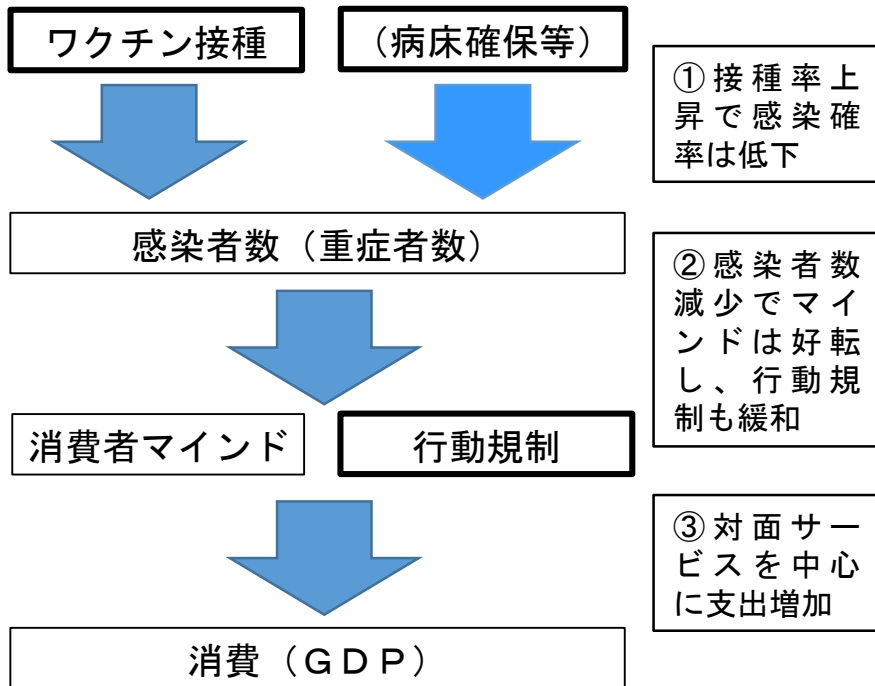
(備考) 1. OECD「Economic Outlook, May 2021」より作成。

2. 民間企業設備に加え、民間住宅投資、公的部門の総固定資本形成も含まれる。

3. ワクチン接種の効果

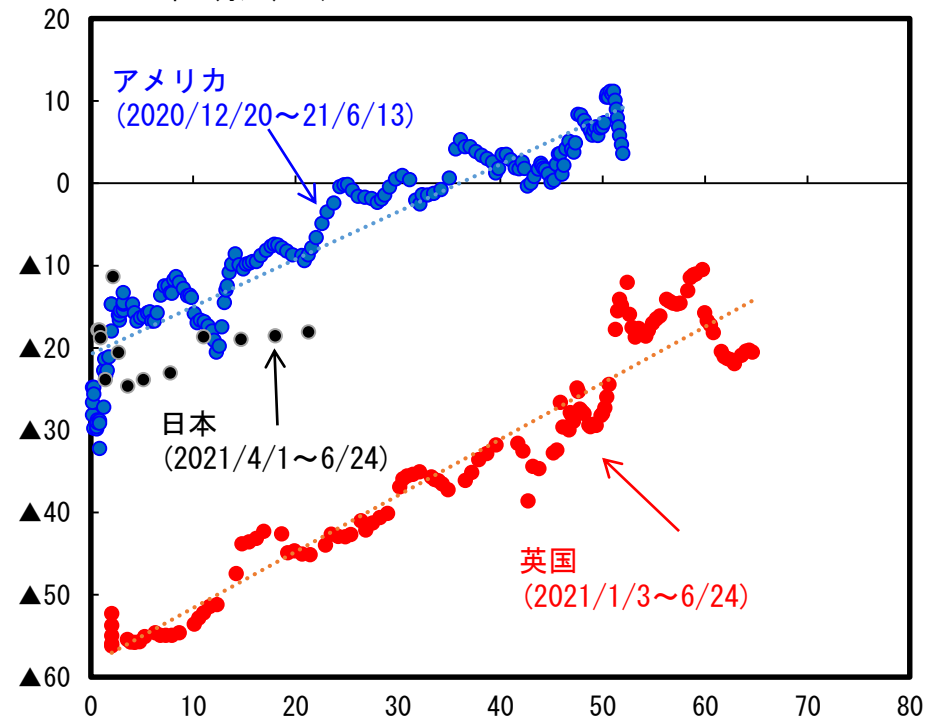
- ワクチン接種の進展に伴い、欧米諸国では新規感染者数や重症者数が減少し、その下で活動制限の緩和が実現され、個人消費は急速に回復してきている（左図参照）。
- 我が国においては、経済活動抑制の要因として、感染者数の動向（及びそれを踏まえた行動規制）に加え、感染リスクに対する心理的な影響が大きいことなどから、これまでのところ、米英に比すると、ワクチンの接種の進展に対して経済の回復は、緩やかな傾向にある。
- しかしながら、ワクチン接種の更なる進展や医療提供体制の改善等を通じて、重症化が抑制され、不安が緩和されていくことで、日本においても、年後半以降、消費活動が急速に回復していくと期待される。

ワクチン接種率、新規感染者数、消費の関係図（太枠：政策変数）



ワクチン接種率とサービス消費支出の関係

（飲食等のサービス消費支出（日本は週次の支出者割合）、2020年2月比、%）



（一回以上ワクチン接種率、%）

（備考）右図について、ワクチン接種率はOur World In Dataによる。総人口のうち、少なくとも1回接種した人の割合。アメリカ及び英国のサービス消費支出は、クレジットカード・デビットカードを基にした日次データ（7日間移動平均）。アメリカは「Economic Tracker」により作成。英国は「UK spending on credit and debit cards by consumption category series」より作成。アメリカは「飲食・宿泊」、季節調整値。英国は、「外食・宿泊・旅行・航空」、未季節調整値。日本は、マクロミル社「Macromill Weekly Index」により作成。過去1週間で「外食」を行った人の割合を示す(2020年2月との差分)。「食事会・飲み会」と「家族との外食」の合計。